Mr. Bassman（ベースマン列伝） Vol.43

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変･･･。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥ぐともの凄い名演･名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Miroslav Vitous【ミロスラフ・ヴィトウス】

Photo: Clara Salina

Profile

1947 年 12 月 6 日、チェコスロバキア・プラハ生まれ。6 歳でヴァイオリン、10 歳でピアノを始める。14 歳から本格的にコントラバスを習い始め、フランチシェク・ポシュタに師事。その後、ジャズに傾倒していき、66 年ウィーンで開催された「国際ジャズ･コンクール」のベース部門で優勝。バークリー音楽大学に進学。66 年後半に渡米。68 年にチック･コリアの『ナウ・ヒー・シングズ、ナウ・ヒー・ソブズ』に参加し、超絶的なプレイが注目される。68~70 年までハービー・マンのグループに参加。69 年初リーダー作『限りなき探究』を発表し、その存在感を決定的にした。この頃、短期間ながらマイルス・デイヴィスのバンドにも参加。70 年ウェイン・ショーターに新バンドの結成を持ち掛けるが、ウェインは既にジョー・ザヴィヌルと新バンドの構想を練っており、それに加わる形で 71 年にウェザー・リポートが誕生。5 作目『ミステリアス・トラヴェラー』を最後にウェザー・リポートを脱退。その後、ECM に移籍し、ソロ作品を発表。93 年から心身疲弊を理由に演奏活動を休止。その間、オーケストラ･サウンド･サンプル『ミロスラフ・フィルハーモニック』を完成させる。2003 年に約 10 年振りのリーダー作『ユニバーサル・シンコペーションズ』発表。68 歳を迎えた現在も精力的に音楽活動を続けている。

ウェザー・リポートの初代ベーシストでもある凄腕ベースマン

チェコスロバキア出身のベーシストといえば、ミロスラフの他にジョージ･ムラーツがいるが、チック･コリアの『ナウ･ヒー･シングズ、ナウ･ヒー・ソブズ』での超絶プレイでジャズ・ファンの度肝を抜き、一躍その名を世に知らしめたミロスラフ。ミロスラフといえば、ウェザー・リポートと共に語られることも多く、ウェザー・リポートの歴代のベーシストの中ではジャコ・パストリアスの人気と知名度が最も高いが、ミロスラフこそがウェザー・リポートの創設メンバー＆初代ベーシストである。1993 年からの活動休止期間に、私財 50 万ドルと 8 年間を費やして、ミロスラフが長年に渡ってレコーディングしてきたサンプル素材とオーケストラ楽器に最適化されたプラグイン・エンジンを統合したオーケストラ・ワークステーション『ミロスラフ・フィルハーモニック』を完成させ、オーケストラ・ライブラリー音源の大ヒット商品となっている。

MV's Great Albums

ウェザー・リポートの『ライヴ・イン・トーキョー』やウェイン・ショーターの『スーパー・ノヴァ』、ハービー･マンの『メンフィス･アンダーグラウンド』等での名演もお薦めです。

限りなき探究
ミロスラフ・ヴィトウス
（ワーナーミュージック：WPCR-25038）

ミロスラフがハービー・マンのプロデュースで 1969 年に録音した初リーダー作品。ミロスラフのベースの魅力が最大限にフィーチャーされた名盤。

ミロスラフ
ミロスラフ・ヴィトウス
（Arista Freedom：AF-1040 [Import LP]）

ミロスラフとドン・アライアスのデュオがメインでアーメン・ハルバリアンが 1 曲で参加。ミロスラフはピアノとシンセも披露。6 曲収録。1977 年録音。

ユニバーサル・シンコペーションズ
ミロスラフ・ヴィトウス
（ユニバーサルミュージック：UCCE-1034）

2003 年に約 10 年振りに発表し、話題を呼んだリーダー作。チック･コリア、ジョン・マクラフリン、ジャック・ディジョネット等が参加。2000~2003 年録音。

ナウ・ヒー・シングス・ナウ・ヒー・ソブス
チック・コリア
（ユニバーサルミュージック：UCCU-99089）

ミロスラフの名を知らしめた超絶＆驚異的なテクニックが光るチック・コリアの名盤。斬新なピアノ・トリオ作。ドラムはロイ・ヘインズ。1968 年録音。